

第89回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2016年11月14日(月) 14時～17時

兼題「枯芝」

- 川井素山 ○雨上り夜店仕度の酉の市
驚一羽苜田を歩む夕日かな
千社札剥げし御堂に木の葉散る
枯芝の日射し優しき野点かな
- 保井寶正 ○怠惰さえ小ひさな贅の小夜時雨
枯芝やママトモ達の晝餉時
冬薔薇若き絵かきに香気あり
ハロウィンのおのれをかくす冬初め
- 後藤克彦 ○枯芝に失なひし鍵耀けり
赤一色岩湯を隠す落葉かな
どんぐりや欲搔き集め手から落つ
中天や相肩見えず秋の蝶
- 佐久間喬 ○スマホ見て言葉なき夜のそぞろ寒
枯芝やままよと振ればチツプイン
とくとくと厚手の猪口に新走り
ひさびさに会う子差し出す柿二つ
- 丸山酔宵子 ○くれなゐの^み水尾^おすえひろに鴨の群れ

紅葉を映す水面を^さ破いて鯉
夕けむり揺れる棚田に稲架の列
オリーブの葉が枯芝に昼小雨
- 菊地崇之 ○枯芝や痛みし胸に刺さる棘
木更津の新海苔の味夢の中
蕎麦刈や妙高の晴根を詰む
錦秋や自然と遊ぶ箱根の湯
- 吉田啓悟 ○初時雨シャワーの温度二度あげぬ
枯芝のバギーかこみて談笑する
木枯らしの大きなうねり帽子とぶ
うらおもておもてうら見せ散る紅葉

青木英林 ○零余子むかご揺れ地下の根芋と交信す
軒下に美脚並べる干大根
枯芝の上に居るよな我が暮し
散る紅葉露天湯までを敷き詰めて

牧野里山 ○枯芝に大の字になり空を見る
柿一つ梢の先に揺れており
里山の周り全ても紅葉し
六地藏冬日の中にほほえみ微笑し

佐久間たか子 ○ひと枝のうすももに照る帰り花
枯芝や集うママ友手弁当
散歩犬陽射しに跳ねて枯芝や
時雨るるか巡る鎌倉時雨れずに

山本草風 ○身を寄せて魚道を上る鮭哀し
妻子供遠くにおひて一人鍋
とうきび唐黍や歯の裏に付く旨さかな
悄然と枯芝歩き去りし夢

金森純女 ○出不精の背を押されたる小春かな
室咲や花屋で肩を寄せ合へり
佗助や茶室にぬくき紅放ち
枯芝を蹴上げる肩の幼さよ

佐伯兵庫 ○枯芝や一期一会の今日を生き
一周忌コスモス揺れる母の影
木枯らしや手酌が似合う縄のれん
小春日や老いらくの恋つぼみ吹く

渡辺鯨波 ○大棚田軍団のごと稲架襖
枯芝や老いてますます毒冴える
文化の日荒川線の急カーブ
秋深しベースの響くジャズ喫茶

澁谷瑠璃 ○空っぽの愛だけあげる姫胡桃
鍵盤を飛び交ふ二羽の秋の蝶
藍玉が戯れていた枯芝が
再会の合言葉スーパームーン

石川智子 ○ちくちくと子ども転げる枯芝生
枯芝を踏みしめ踏みしめ風の中
枯芝が守る広場に蟻の列
枯芝のトンがりとがって空を制す

次回「萩句会」

日時 2016年12月12日(月)14時～17時

場所 下目黒住区センター第2会議室

兼題 『セーター』一句 当季雑詠三句 計四句